



理事長 小林 寿夫



明けましておめでとうございます。皆様方も新年を健やかに迎えになったことと思います。

昨年はコロナに始まりコロナに終わった一年でした。なごみ苑では、1人の感染者も出さないことを目標にスタッフ全員で対処して参りました。巷では「コロナ〇〇」という言葉が溢れかえり、思いつくだけでも「コロナ不況」「コロナ倒産」「コロナ離婚」「コロナうつ」「コロナ廃業」など次々と出てきます。(〇〇はネガティブな言葉ばかり)

わが国でのうつ病の罹患率は女性が男性の約2倍であるのに対し、男性の自殺率は女性の2倍以上であり、このパラドックスの原因はいまだに定説がないようです。昨日のニュースによると2020年の7月以降の自殺者数が連続で昨年を上回っており、特に女性の自殺者が27.5%増加(男性は0.4%)しているそうです。さらに富山県は10月、11月と前年からの増加率が全国ワースト1位とのこと。女性とうつ病との関連を考えると、今まで日中に仕事で不在だった夫が一日中自宅にいるストレス、気の合う仲間たちのおしゃべりや愚痴のこぼしあいなくなったなど思い当たることはたくさんあります。やはりストレスのはけ口や孤立感の防止などが大切だと再認識させられると同時に、コロナによる巣ごもり生活は男性よりも女性の方により大きな負担を与えたと思われま

す。今年もコロナの影響を受けながらの日常生活が続くと予想されます。昨年のようなネガティブな「コロナ〇〇」という言葉が聞かれない1年であることを願いながら、周山会なごみ苑職員一同頑張っていきたいと思っています。

本年もよろしくお願い申し上げます。

施設長 佐々木 正



明けましておめでとうといういつもの新年の挨拶に今年は違和感を覚えます。

一昨年年末、中国に発生した新型コロナウイルス感染による肺炎。隣国といっても海の向こうの出来事と他人事のように思っていました。しかし、横浜港のクルーズ船内集団感染、中国武漢から戻った日本人の感染が確認されるなど黄信号が点滅、警戒心が生まれました。そして、4月、富山市の病院と介護施設での院内感染、クラスター発生で一気に赤信号になりました。そして、感染爆発パンデミック、あっという間に全世界に広がりました。米英など外国ではワクチン接種が始まり、日本でも近々使用されるようですが、治療薬が開発されるまでは感染予防しかありません。施設の感染防止は利用者に接触する側の感染予防に尽きます。私たち全職員、面会されるご家族、出入り業者が感染源です。感染源にならないように、感染しないように、マスク、手洗い、「3密(密閉・密集・密接)」を避け、ソーシャルディスタンスを厳守してきました。外出や飲食、旅行など不要不急を心がけ、絶えず、日常生活に注意して1年になります。発散できないストレス、バーンアウト寸前のなかで“感染者なし!”は職員のプロフェッショナルとしての使命感と自覚、そしてご家族や周囲の理解と協力があるからです。闘いの最中ですが、心から感謝し、お礼を申し上げます。また、面会制限や面会禁止は、ご家族の胸中を想うと胸が痛みますが、ご理解とご協力をお願いいたします。感染拡大、医療危機など未だ第3波の渦中にあります。治療法がない新型コロナウイルスは私たちに大きなテーマを与えました。生命と経済、自由と倫理、個人と社会(地域・国・世界)、分断と協調など、『生きる』ことへの姿勢です。単細胞のウイルスが60兆の細胞集団の私たちを揺さぶっているのです。渦を鎮める智慧は?必ず鎮静化し、乗り越えます。でも、“喉もと過ぎれば・・・”になります。このテーマは私たちにとって永遠に不滅です。新型コロナの警鐘を胸に刻みましょう。

大きな我慢の後には大きな歓びが待っているはずです。足音が聞こえてきそうです。耳を澄ましなが